女川町復興まちづくりデザイン会議の成果

令和3年6月25日

おながわちょう
女川町
Onagawa Town

女川町復興まちづくりデザイン会議

目次

1. デザイン会議の概要 ---- 2
2. 高台検討部会 ---- 9
3. シンボル空間検討部会 ---- 21
4. 川まちづくり検討部会 ---- 26
4. 清水公園検討部会 ---- 28
6. 民間の取組みに対する技術的支援 ---- 31

1. デザイン会議の概要

（1） デザイン会議の目的

- 東日本大震災により り災した女川町の復興まちづくりにおいて、優れた景観づくりを計画的に進め、誇りと愛着の持てる暮らしやすいまちの実現に寄与するため、女川町復興まちづくりデザイン会議（以下「デザイン会議」）を設置

1. デザイン会議の概要

（2） デザイン会議が目指すもの（「空間デザインの原則」より）

① 愛着と誇りを持てる女川町らしい空間のデザイン

- 港町らしいライフスタイルの舞台となる空間を追及する
- 山と海との関係性を大切にする
- 震災前の歴史・文化・風土の記憶に配慮する
- 時間と共に魅力を増していくことを目指す

② 総体的・分野横断的な空間のデザイン

- 区間と時間の連続性、総合性を確保する
- 自然環境や自然地形を活かす
- 全ての人にとって機能的で安全に利用できるユニバーサルデザインを行う

③ 将来世代に引き継ぐ空間のデザイン

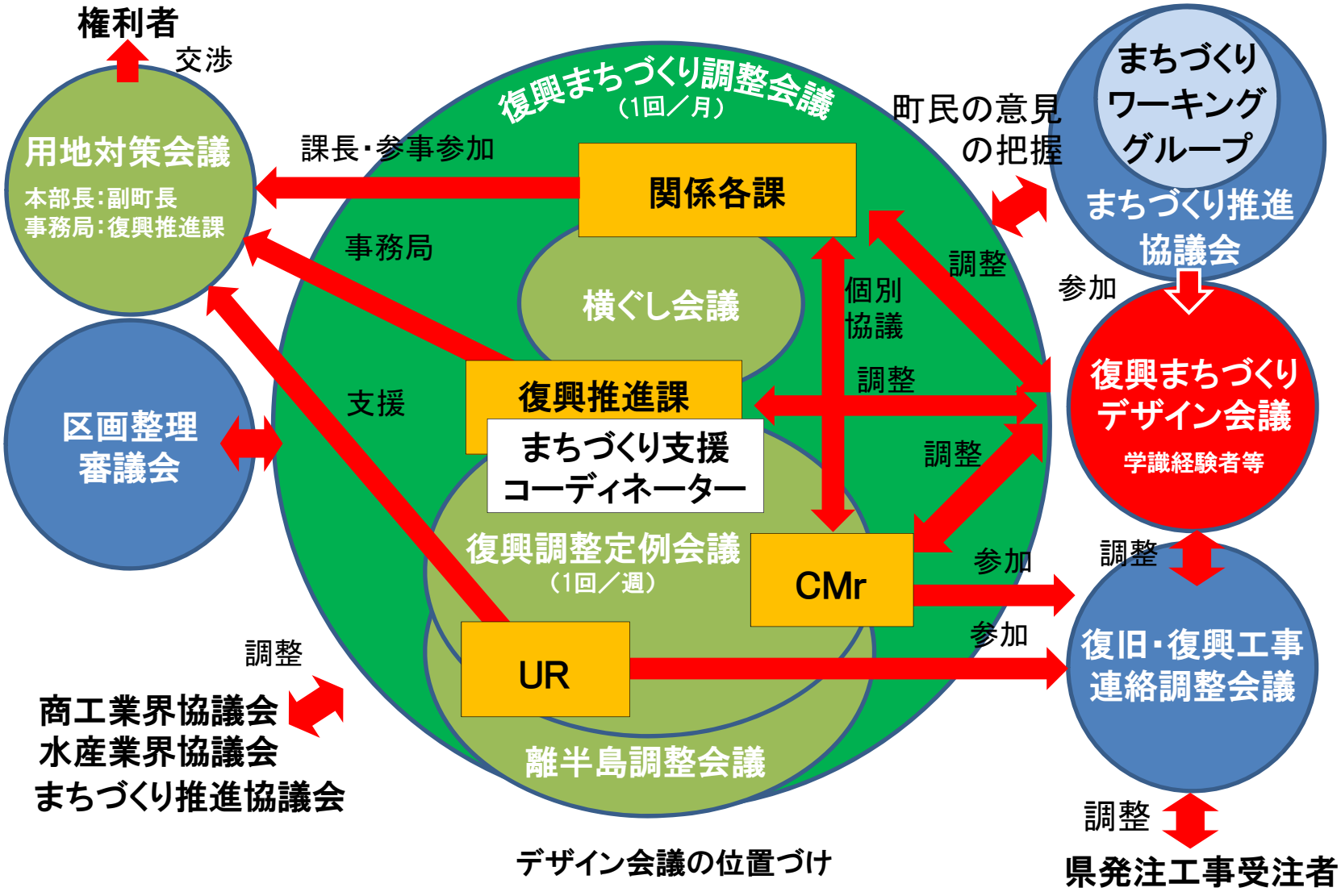
- まちの持続可能性を意識する
- コンパクトで暮らしやすい都市構造の形成を目指す
- 災害からの教訓を新たなまちの姿に反映する
- 町全体では車での移動しやすさに配慮。加えて中心部では歩いたときの心地よさを演出する

④ 多様な主体の協働による空間のデザイン

- 町民、事業者、行政が協働して創ってゆく

1. デザイン会議の概要

（3） デザイン会議の位置づけ



デザイン会議の位置づけ

1. デザイン会議の概要

（4） デザイン会議の体制

- 復興のスピード感の中で、将来世代に引き継ぐまちの形の議論を設計に反映
- 町長、都市デザイン専門家、設計・施工者、町民などあらゆるステークホルダーが出席し、その場で意思決定を行うことで、スピードを維持しつつ、質の向上を図る
- 計画プロセスを公開しているため、まちの在り方や方向性などを住民、関係者と共有





デザイン会議のようす

庁内決定
・デザイン会議の議論を尊重

議論結果の提示

デザイン会議にて議論

委員：町長、学識経験者、専門家

事務局	オブザーバー
・復興推進課 ・コーディネーター	・町民 ・まちづくりWG　等
・設計・計画担当者 ・所管課	・UR都市機構 ・CMr（設計・施工）

報告

関係各種団体

検討案提示

テーマ別検討部会にて検討

女川町 所管課 → 指示 → CMr 設計者 施工者 ⇄ 提示 / 助言 ⇄ 検討部会員

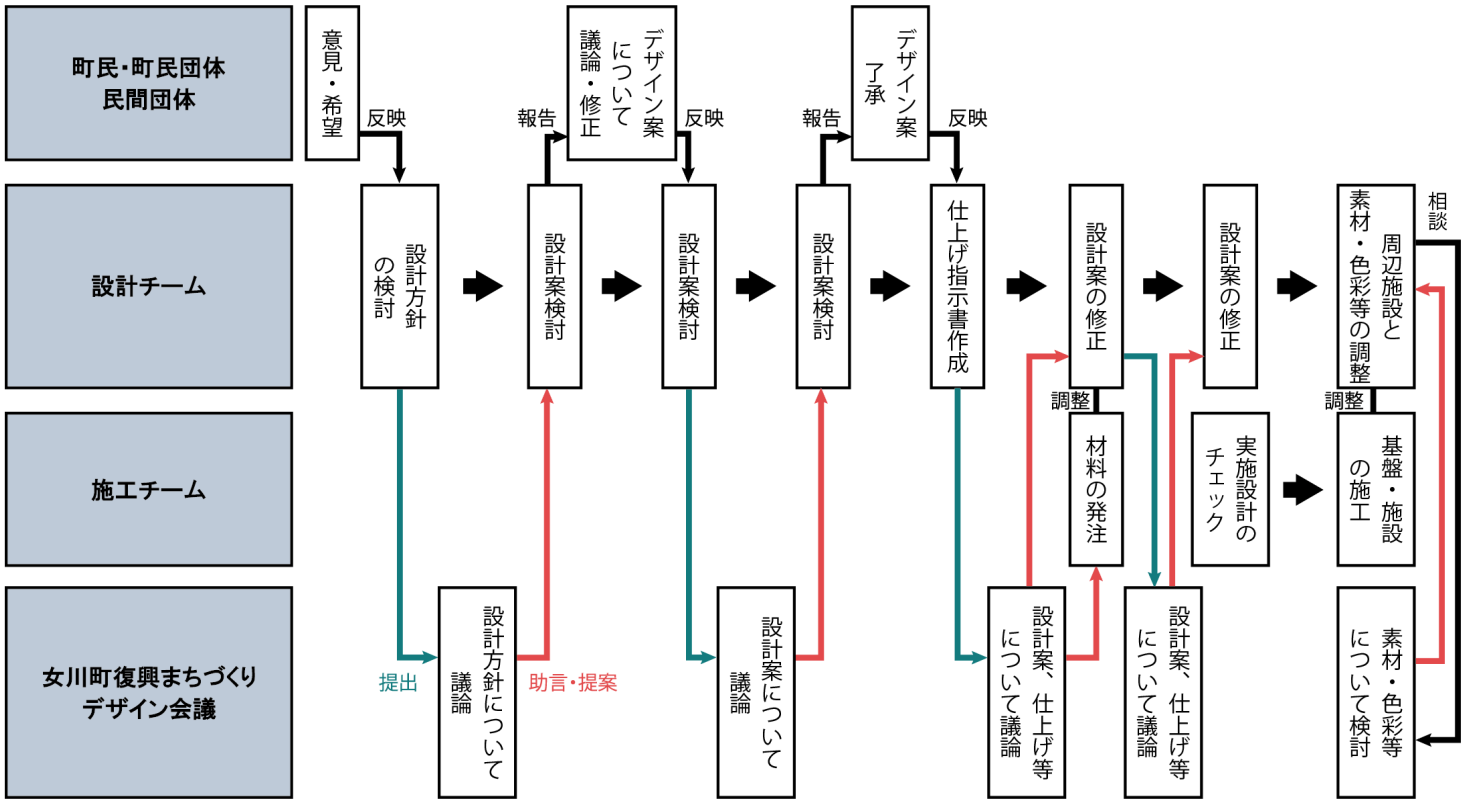
デザイン会議の体制

開催回数
平成25年度：9回
平成26年度：12回
平成27年度：5回
平成28年度：5回
平成29年度：4回
平成30年度：5回
平成31年度：4回

1. デザイン会議の概要

（5）デザイン会議の進め方

- これまでのワークショップの検討結果を踏まえ、デザイン会議と設計チーム、民間団体が設計案について議論
- 施工中でも素材や色彩など、細かな調整を継続し、質の向上を追求
- デザイン会議の結果は、その都度各種民間団体に報告し、それを基に、民間団体から再度意見を抽出することで、民間の意見を設計に反映



デザイン会議を通じた設計フロー

1. デザイン会議の概要

（6） 検討部会の設置

テーマ別に部会を設けて検討を行い、デザイン会議にて検討した内容を報告、議論

高台検討部会(全32回：2013年9月 ～ 2019年3月)【部会長:宇野健一氏】

・高台造成計画、緑化、街区公園、新役場庁舎等の「住みたい、訪れたい、自慢したい風景の創出」「安全・安心・暮らしやすいまちづくり」を目指し、改善案等を検討

シンボル空間検討部会(全53回：2013年9月 ～ 2019年9月)【部会長:小野寺康氏】

・ＪＲ女川駅周辺の駅前広場、プロムナード、観光交流エリアなどのシンボル空間の整備コンセプト、空間基本構成、舗装・植樹・照明等の空間構成物の設計案、周辺建築物との連携方策等を検討

川まちづくり検討部会(全11回：2014年10月 ～ 2017年12月)【部会長:吉村伸一氏】

・二級河川女川の基本設計・詳細設計、清水地区公園づくり構想、町民参加によるまちづくりＷＧの提言を踏まえ、水辺の価値をいかした女川町としての総合的なまちづくり計画を検討

清水公園検討部会(全18回：2015年11月 ～ 2019年12月)【部会長:宇野健一氏】

・清水地区公園づくり構想、町民参加によるまちづくりＷＧの提言を踏まえ、水辺の価値をいかした女川町としての総合的なまちづくり計画を検討

1. デザイン会議の概要

（7）デザイン会議での主な検討内容

これまで（H25年9月～R２年３月）、44回のデザイン会議を開催し、およそ270に及ぶテーマを議論

各部会共通テーマ

- 空間デザインの原則の提案
- 基本設計、詳細設計での景観調整
- 基本計画、基本設計、詳細設計への技術的アドバイス
- 施工調整
- 設計への利用者意見の反映　等
- 今後のまちづくりの課題の提示

シンボル空間検討部会

- シンボル空間のデザイン提案
- サイン整備計画へのアドバイス　等

清水公園検討部会

- 清水公園の段階的整備の提案　等

民間の取組みに対する技術的支援

- 水産加工団地の景観ガイドラインへのアドバイス
- 女川町商業エリア景観形成委員会へのアドバイス
- 女川町商業エリアまちなみデザイン誘導ガイドラインへのアドバイス　等

高台検討部会

- 土地利用計画の変更
- 地形を活かした造成計画の提案
- 工期スケジュール短縮に向けた造成計画の提案
- 避難場所と避難経路の配置検討
- 地域コミュニティの核となる街区公園と集会所の提案
- 法面保護（緑化デザイン）へのアドバイス
- 女川町まちづくりデザインのあらまし（初版・第2版）の策定
- 街区公園の整備方針の提案
- 緑のまち活へのアドバイス
- 観音沢緑地の整備構想の提案
- 住宅地のまちなみ景観誘導ガイドラインの提案
- 住宅地の敷地割の考え方の提案
- 女川小学校校庭東側のサクラと道路工事の調整
- 女川町公共空間景観形成ガイドラインの策定
- 緑のネットワーク構想の提案　等

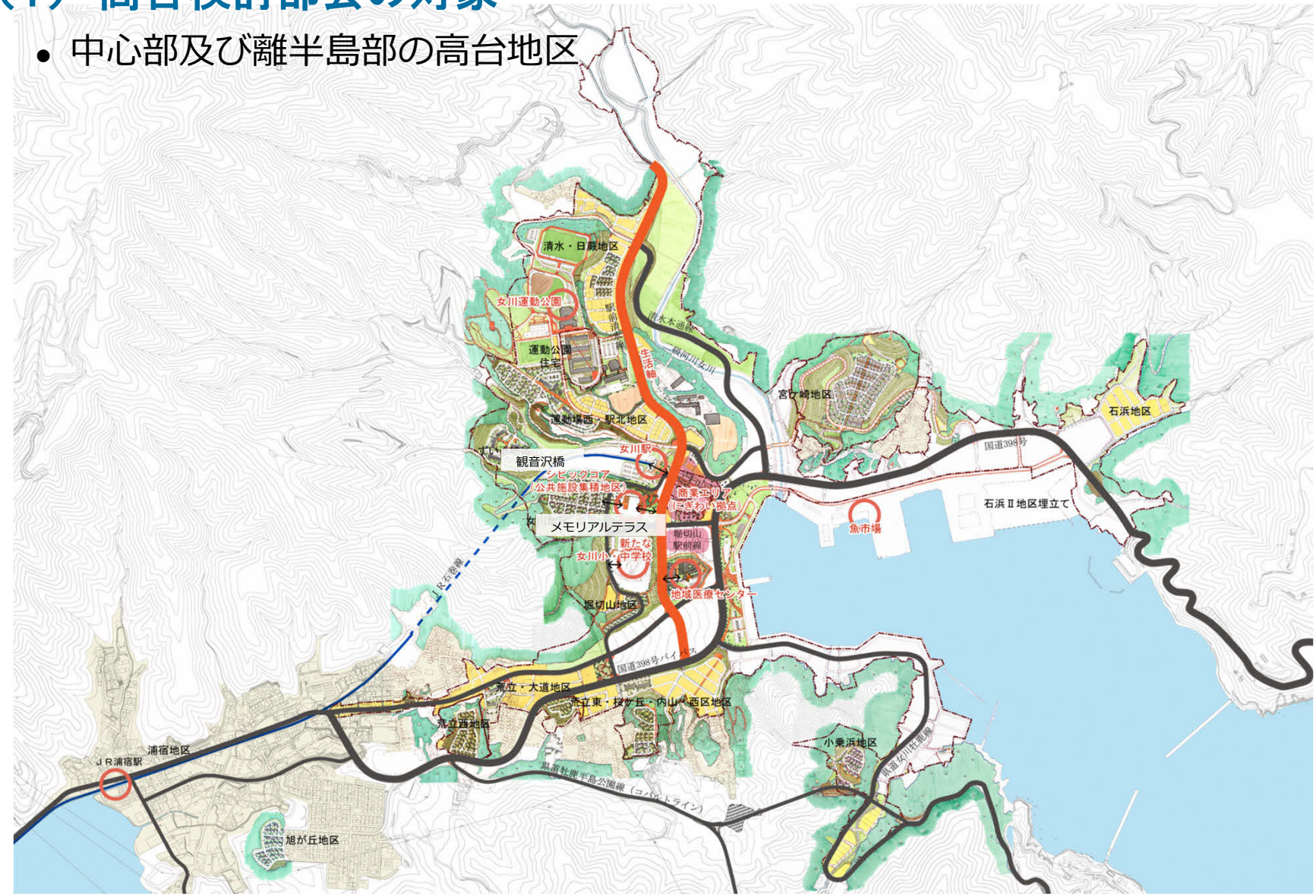
川まちづくり検討部会

- 多自然川づくりの提案　等

2. 高台検討部会

（1） 高台検討部会の対象

- 中心部及び離半島部の高台地区



2. 高台検討部会

（2） 女川町中心部のバリューアッププランの提案

バリューアッププランのコンセプト

どこからでも海が見える

住みたい、訪れたい、自慢したい風景の創出

安全・安心・暮らしやすいまちづくり

整備の基本的な考え方

数十年に一度は必ず来る津波に対しても浸水しないまち

複数の高台避難道路・避難ルートが整備されたまち

子どもも大人ものびのび歩き、活動できるまち

子どもたちが安心して学べるまち

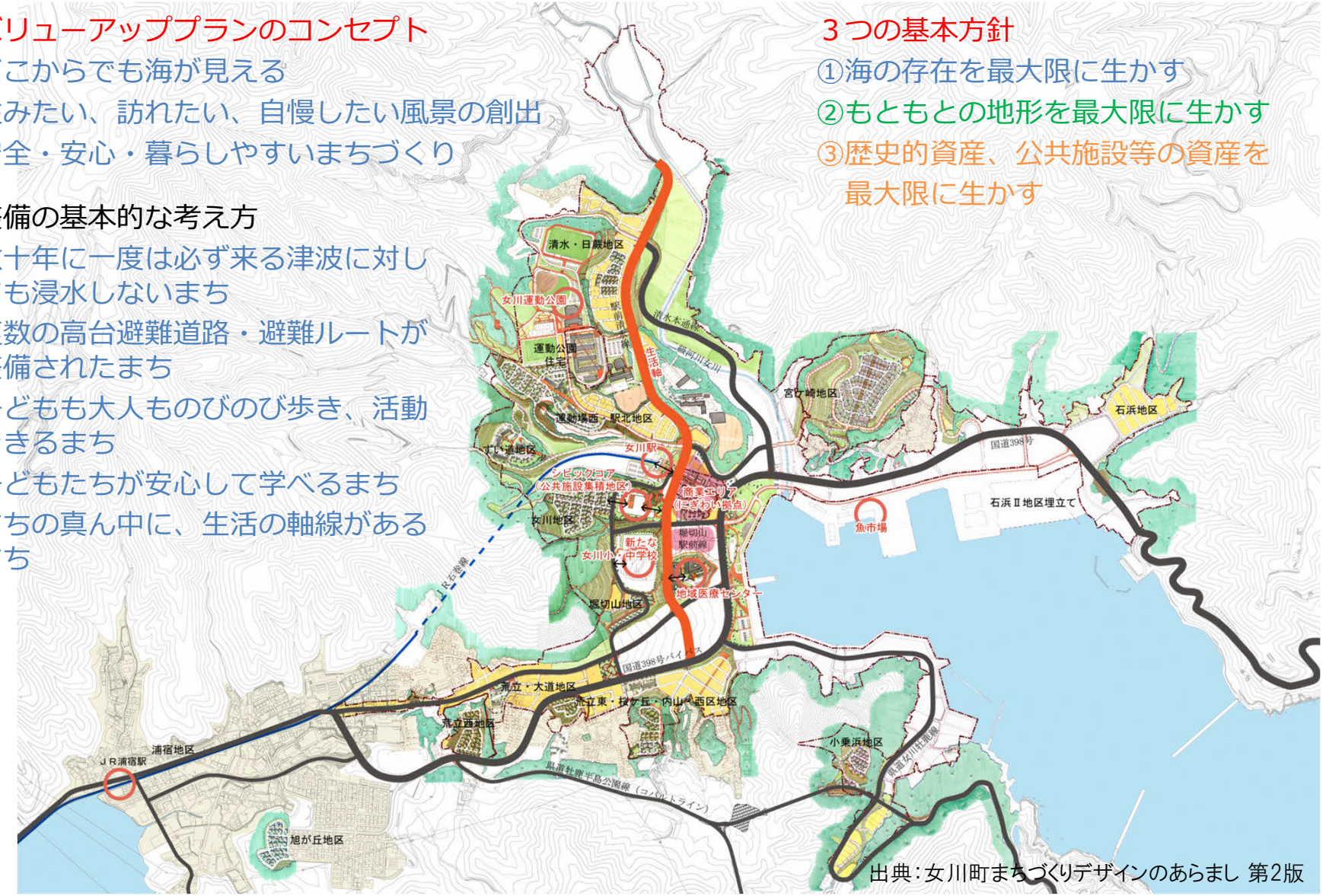
まちの真ん中に、生活の軸線があるまち

３つの基本方針

①海の存在を最大限に生かす

②もともとの地形を最大限に生かす

③歴史的資産、公共施設等の資産を最大限に生かす



出典：女川町まちづくりデザインのあらまし 第2版

2. 高台検討部会

（3） 女川町中心部の空間づくりの考え方の提案

にぎわい拠点となる商業エリア

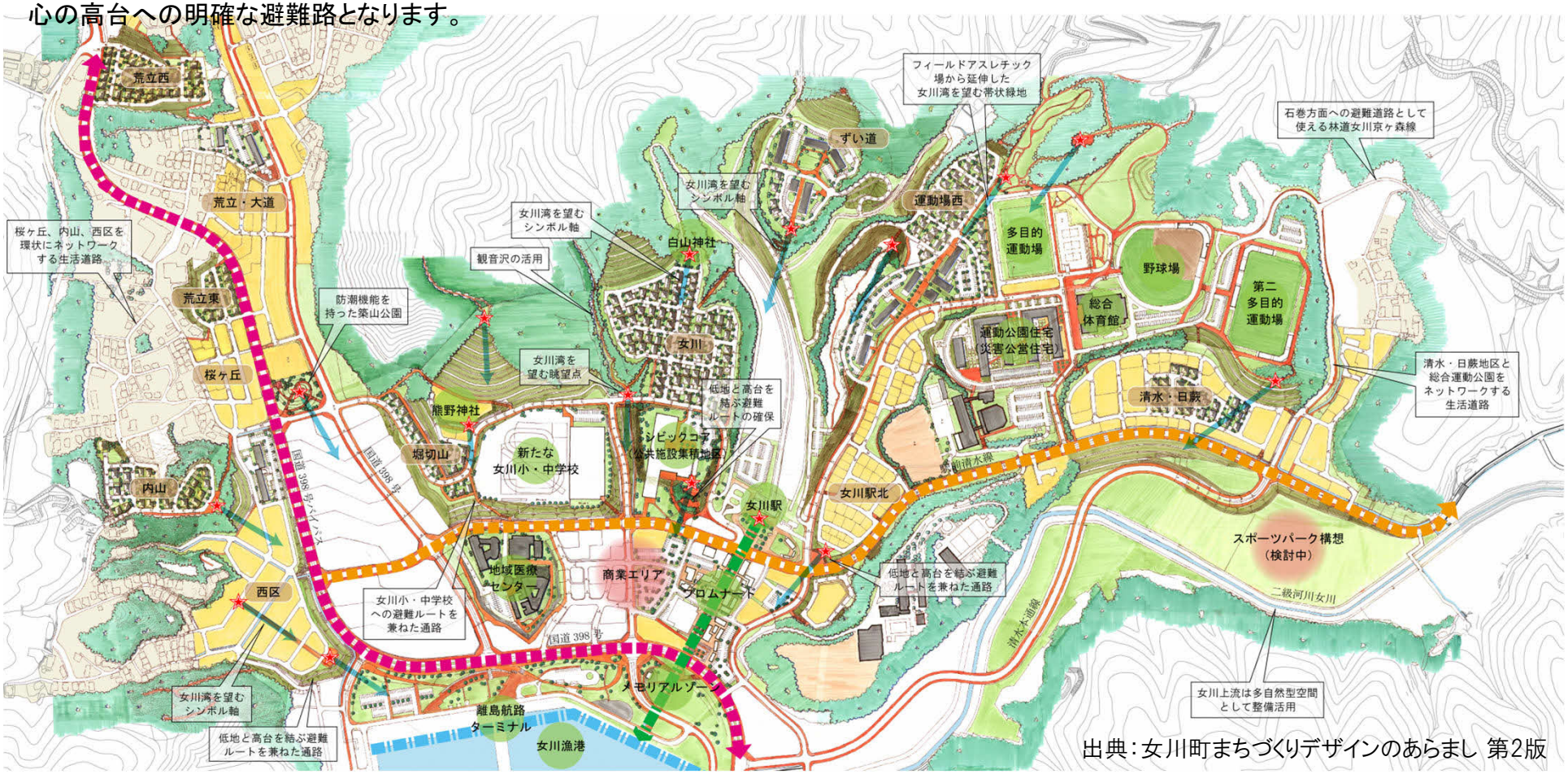
・町民が気軽に訪れ、集い、語り合う場をつくることをめざし、町民の“居場所”の形成を図ります。
・駅前広場、プロムナードを介して、日常生活と観光（非日常）の交流が生まれる場づくりに努めます。
・プロムナードは、いざというときの安全な市街地中心の高台への明確な避難路となります。

公共公益施設を集めたシビックコア

・役場、生涯学習センター、保健センター、子育て支援センターを集め、コンパクトで利便性・機能性の高い施設づくりを行います。
・将来のまちの姿を考えた持続可能な施設づくりを行います。

町のへそとなる女川小中学校

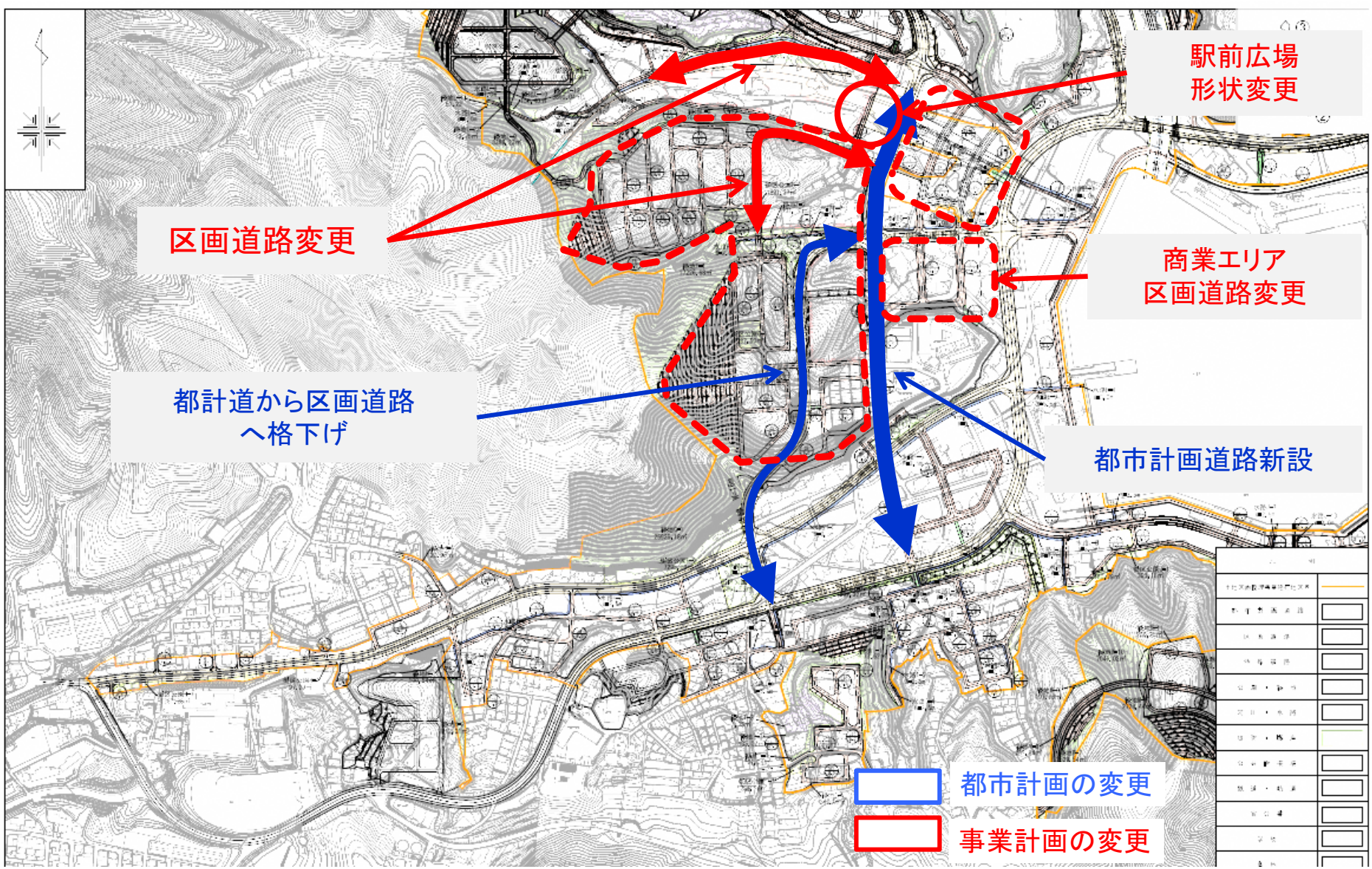
・次世代を担う子どもたちの「集い」「学ぶ」場である女川小中学校をまちの中心（まちの「へそ」）に整備することにより、地域コミュニティの一体化を図ります。



出典：女川町まちづくりデザインのあらまし 第2版

2. 高台検討部会

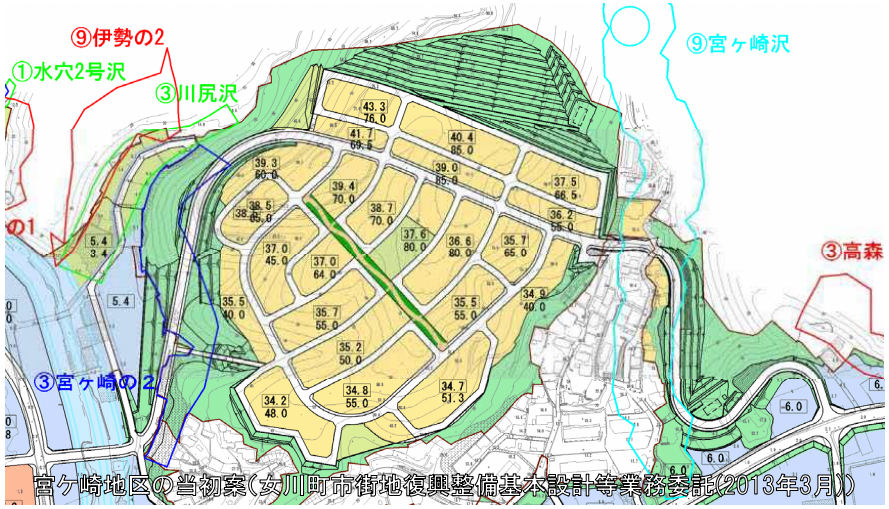
（4） 土地利用計画の変更



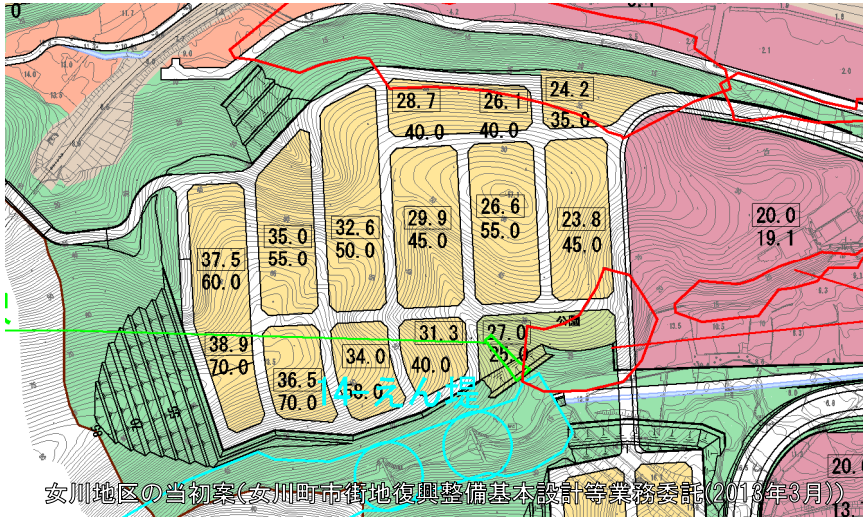
2. 高台検討部会

（5） 地形を活かした造成計画の提案

当初案



宮ケ崎地区の当初案（女川町市街地復興整備基本設計等業務委託(2013年3月)）



女川地区の当初案（女川町市街地復興整備基本設計等業務委託(2013年3月)）

修正案



宮ケ崎地区の修正案（女川町まちづくりデザインのあらまし 第2版(2014年11月)）

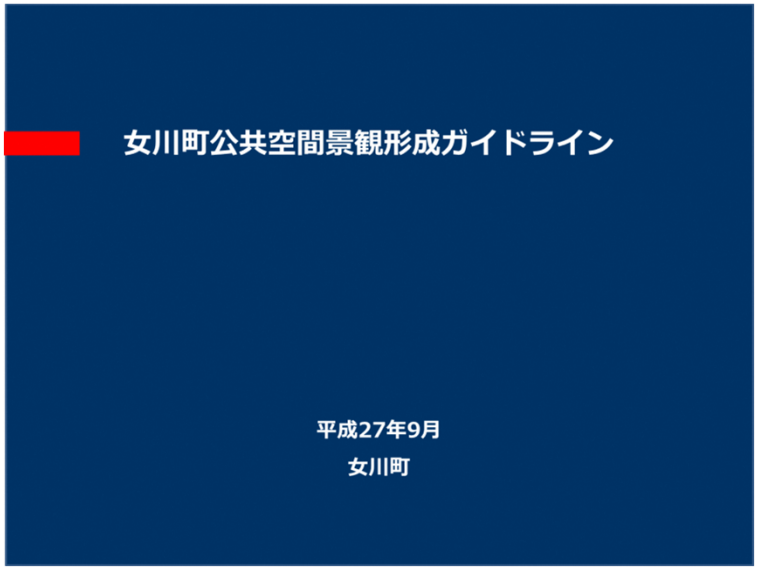


女川地区の修正案（女川町まちづくりデザインのあらまし 第2版(2014年11月)）

2. 高台検討部会

（6） 公共空間景観形成ガイドラインの策定

- 道路・公園・河川などの公共施設は、社会基盤として重要であるだけでなく、まちなか空間の大きな位置を占める
- 景観づくりの先導的な役割を担い、町民の景観に対する意識の醸成や、町民が誇りと愛着を持てる景観づくりへつなげていくため、公共空間における景観づくりの考え方や配慮事項を整理（役場内の内規として運用）





公共空間景観形成ガイドライン（抜粋）

出典：第18回女川町復興まちづくりデザイン会議

2. 高台検討部会

（7）まちなみデザイン誘導ガイドライン【住宅地編】の策定

- 復興していく女川が魅力ある心地よい、自慢したいまちとなることを目指し策定
- 町ホームページで公開するとともに、高台移転住宅地の購入者および住宅地換地地権者へ宅地引渡し時にガイドラインを配布



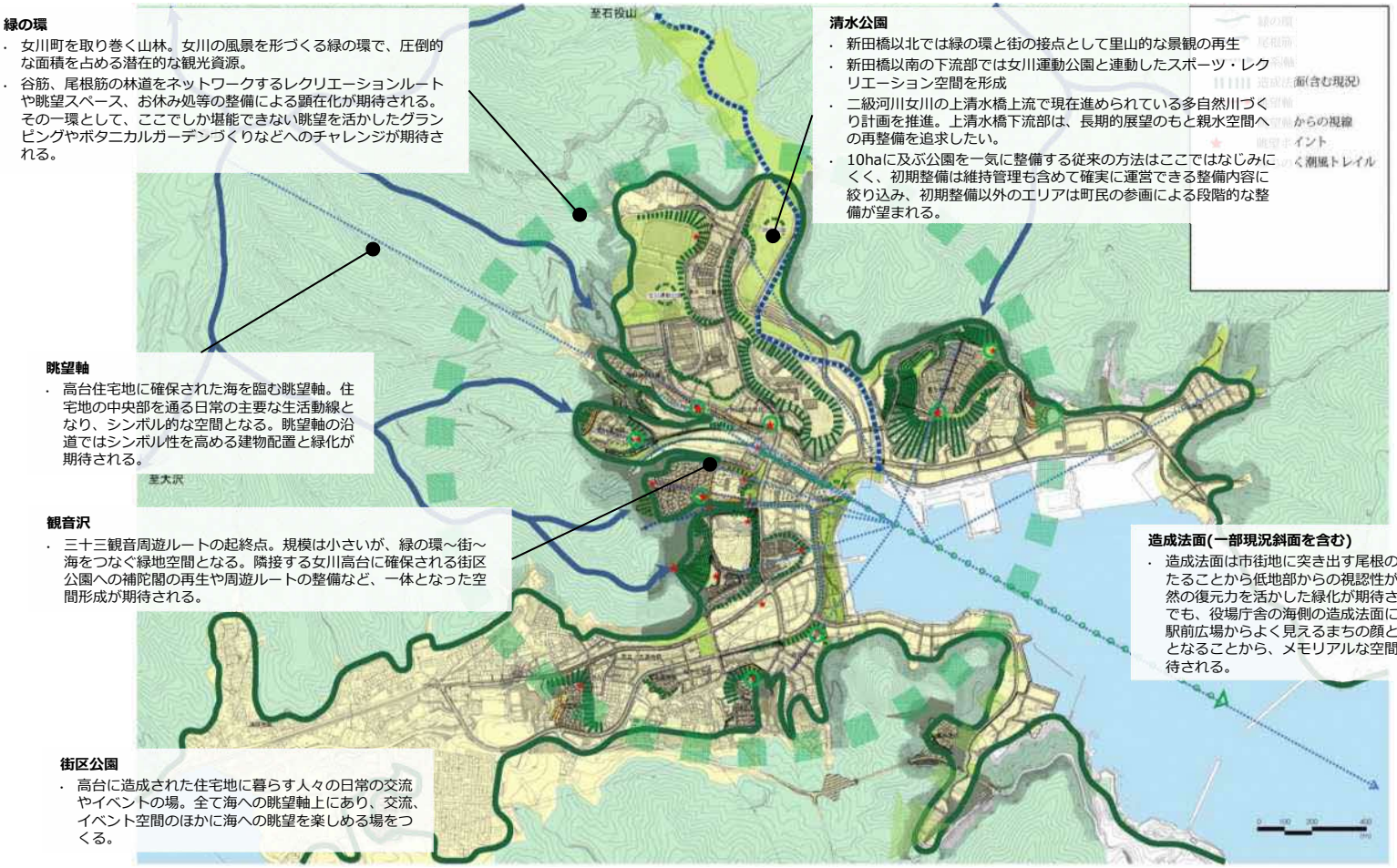
まちなみデザイン誘導ガイドライン【住宅地編】（抜粋）

出典：第21回女川町復興まちづくりデザイン会議

2. 高台検討部会

（8） 緑の整備に係る基本方針（緑の基本構造図）の提案

- 復興事業の進捗に伴い、人工的な構造物、長大法面などが縁辺部に発生してくること、また新たな生活が始まる中での暮らしやすい町の実現について、緑の再生を目指し元の暮らしの中にあったうるおいを取り戻していくことが必要であった。
- そこで復興まちづくり事業での緑の整備の基本的な方針を掲げ、今後の事業の指針提案。



2. 高台検討部会

（9） 緑のまちづくり活動へのアドバイス

- 女川町では、 誰もがまちづくりに主体的に関われるよう、学びと実践の場づくりとして、まちづくり活動支援事業（まち活）を実施（2014年度～2018年度）。
- まち活を通して、町民が誇りを持ち、町外の人たちが訪れたくなる美しいまちを実現するために、進め方や考え方をアドバイス。



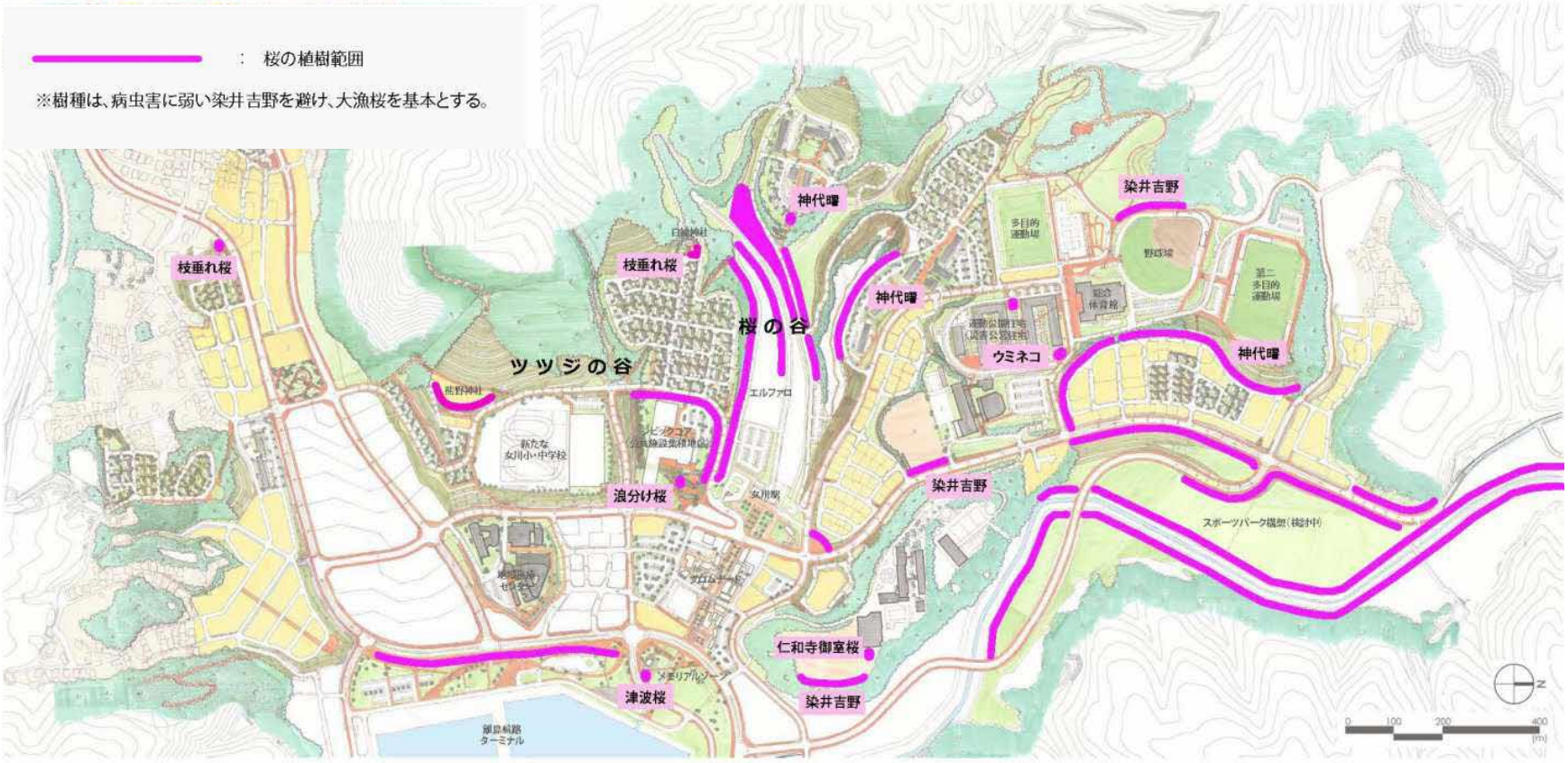


花と緑の活動ガイドブック

2. 高台検討部会

（10） 桜のまち女川の構想へのアドバイス

「桜守の会」と所管課が調整を行いながら進めている「桜のまち・女川」構想に関して、追加で考慮した方が良い点等をデザイン会議を通じ、アドバイスを実施。



桜のまち女川の構想図

2. 高台検討部会

（11） 女川小学校跡地周辺の土地利用構想の提案

- 現在の女川小学校が小中一貫校へ移転後、女川消防署と保育所を整備予定。
- 約3万3000平米の敷地に関して、既存の施設は活かしつつ、消防署、保育所、関連する道路計画を含め全体を土地利用計画の検討。



女川小学校跡地周辺の土地利用構想図

2. 高台検討部会

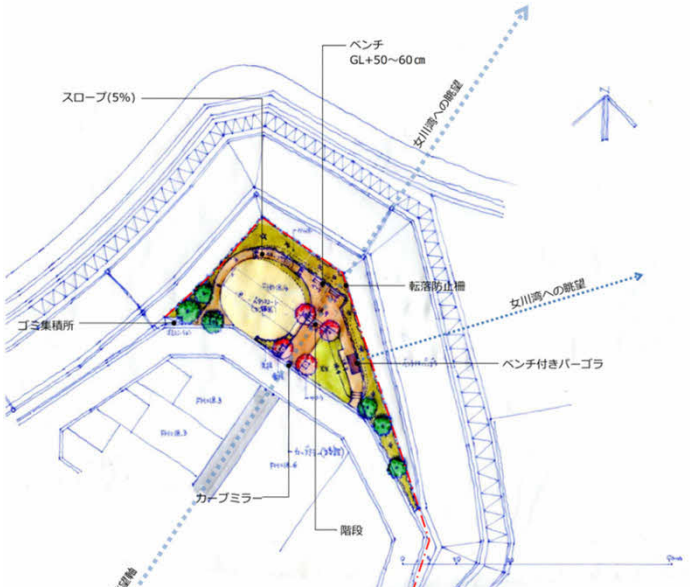
（12） 街区公園の整備方針に関する提案

- 町民にとって使いやすく、後々の公園の利用に応じた改変をやりやすくなるように、街区公園整備における基本方針や、各公園（14公園）の設計の考え方を提案。
- また、課題や設計条件の変更等に対してアドバイスやデザイン監理を実施。

公園整備における基本方針

- 町の眺望軸に位置する公園では、眺望軸を活かした造形とする。
- 隣接する公園や道路等との関係に留意し、公園との一体的な利用やデザインの統一を図る。
- 女川の町を象徴する海への眺望を最大限に生かすよう、ベンチ・パーゴラの配置や目線高さと転落防止柵の高さ関係等に配慮する。
- 周囲に開かれ地域住民が集う公園となるよう、囲われた印象につながりやすい転落防止柵、立入防護柵の設置は最小限にとどめる。
- 周囲の住宅地や隣接する運動公園等とのアクセス性を高めるよう、公園を中心に歩行者ネットワークの形成を図る。

敷地特性
西区公園は西区高台住宅地の北端、住宅地内に整備済みの眺望軸(歩行者専用道路)の延長上に位置する約 550 ㎡の女川湾を臨む眺望に優れた公園です。
整備の基本的な考え方
女川湾への眺望に優れた敷地特性を最大限に活かした整備が望まれる公園です。住宅地内に整備済みの眺望軸を公園内でしっかり受け止めるとともに、女川湾への眺望を阻害している転落防止柵に邪魔されないように 50～60 ㎝程度高い展望スペースを整備することが望まれます。眺望軸に隣接してまとまったスペースが確保できる西北部にペタンク等が可能な広場(ダスト舗装)を、その逆側には芝生広場を整備することが考えられます。また、眺望軸上にカーブミラーが整備済みで、本公園整備に併せて移設が望まれます。

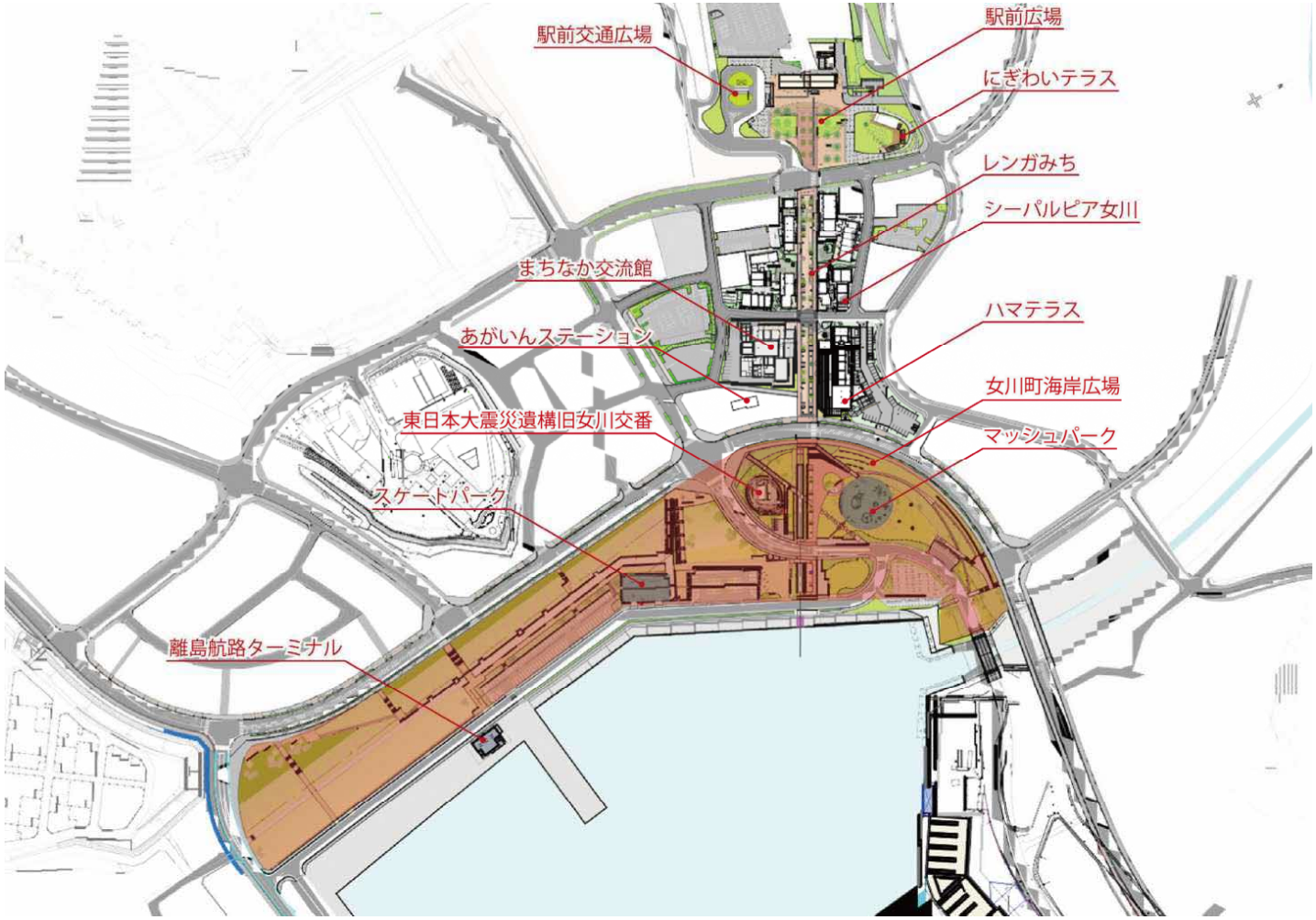


一例：西区公園における考え方

3. シンボル空間検討部会

（1）シンボル空間検討部会の対象範囲

ＪＲ女川駅周辺の駅前広場、プロムナード、観光交流エリアなどのシンボル空間の整備コンセプト、空間基本構成、舗装・植樹・照明等の空間構成物の設計案、周辺建築物との連携方策等を検討

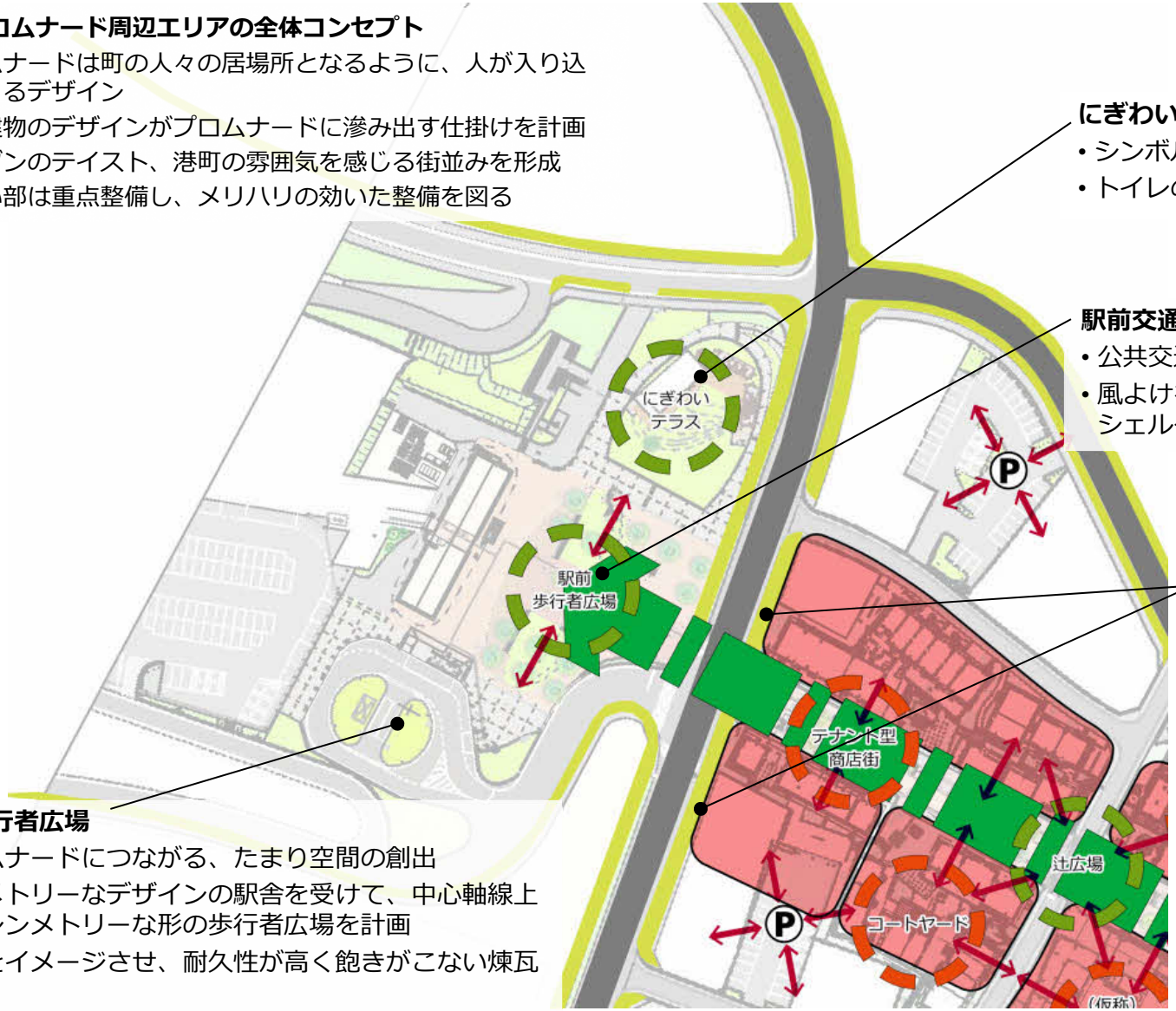


3. シンボル空間検討部会

（2） 駅前広場のおける成果

駅前プロムナード周辺エリアの全体コンセプト

- プロムナードは町の人々の居場所となるように、人が入り込んでくるデザイン
- 沿道建物のデザインがプロムナードに滲み出す仕掛けを計画
- 和モダンのテイスト、港町の雰囲気を感じる街並みを形成
- 取合い部は重点整備し、メリハリの効いた整備を図る



にぎわいテラス

- シンボルツリーの配置
- トイレの配置

駅前交通広場

- 公共交通利用の利便性向上
- 風よけを設置したサインを兼ねるシェルターの設置

- 駅前広場側に向けたプロムナード沿道施設の顔づくり

駅前歩行者広場

- プロムナードにつながる、たまり空間の創出
- シンメトリーなデザインの駅舎を受けて、中心軸線上に、シンメトリーな形の歩行者広場を計画
- 大地をイメージさせ、耐久性が高く飽きがこない煉瓦舗装

3. シンボル空間検討部会

（3）レンガみちにおける成果

シンボル軸（レンガみち）
- ＪR女川駅・商業エリア・観光交流エリアをつなぐシンボル軸の創出
- 人々が休めるベンチやレンガ擁壁に、イベント時のユーティリティ施設(電顕・水栓等)を計画
- フットライトとポール照明の二段構えによる、立体的な夜間景観の演出
- 大地をイメージさせ、耐久性が高く飽きがこない煉瓦舗装
- バナーアームが設置できる歩道灯
- コンセントの位置は、ベンチの民地側の側面に設置することを推奨
- 道路占用をオーソライズするための組織づくり等、実現に向けた検討

テナント型商店街
- 沿道沿いの賑わい創出
- 沿道施設、店舗の賑わいがプロムナードへにじみだす一体的な空間づくり
- 海からの見えを意識し、屋根・外壁の色、建物輪郭
- 線と山の綾線の関係性に配慮する建築デザイン検討
- プロムナードの沿道空間は左右対称に揃えず、店舗やデッキの配置、建物のセットバック等バリエーションを持った構成
- 通り抜けの確保
- 維持管理・更新コスト削減を考慮した外構計画



ハマテラス
- 観光客の集客拠点の創出
- 被災前の女川駅舎位置の再現等によるまちの記憶を残す工夫
- 海への眺望の確保、周辺街区との連続性を重視

- T字路のアイストップ箇所の空間演出

辻広場
- 沿道施設とからむ、たまり空間の創出

- 区画道路・駐車場側の顔づくり

まちなか交流センター
- まちのにぎわいの中心・日常的な居場所の形成
- 開口部を大きく街に開いて、境界都に人が佇める溜まり空間の整備
- 道路に面して人が溜まる空間
- 周辺の建物との連続性を重視した平入り
- 雨風への耐久性を踏まえた軒下・軒上の外壁素材

漁業体験施設
- 被災前の女川駅舎の外観を復元した漁業体験施設の整備

プロムナードと国道398号の交差部
- プロムナード空間の視界を阻害しない信号の位置の検討
- コスト、工事期間、眺望、防災等を考慮した平面交差形状
- 海を身近に感じられるパブリックスペースの創出
- 「ユニバーサルデザイン」の理念に基づく国道398号とメモリアルゾーンの高低差のある動線計画の検討

3. シンボル空間検討部会

（4） 女川町海岸広場北側における成果

女川町海岸広場の全体コンセプト

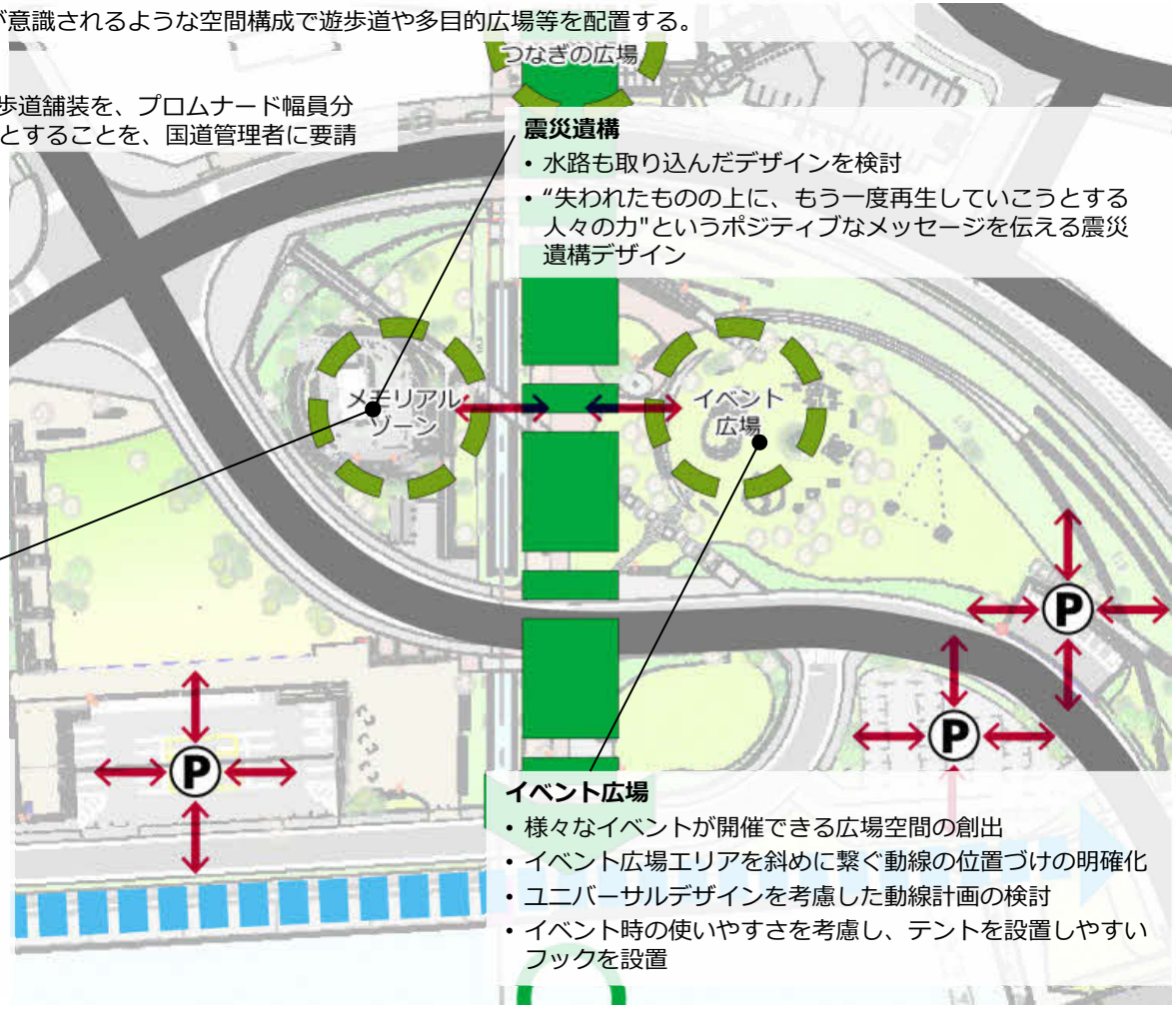
- 海こそが女川町のアイデンティティである。市街地が女川湾に接続する、この観光交流エリアは観光客が最も訪れる場所であり、海が美しく感じられる空間づくりこそ、女川らしさの表現となる。
- 観光交流エリアは町と海をつなぐ重要な面的な緩衝帯であり、町のにぎわいを受It止め水辺と結び合わせる。
- 観光交流エリアは町全体の価値を高めるコアである。
- 外周部の国道398号線と水際部の間の高低差を利用し、常に海が意識されるような空間構成で遊歩道や多目的広場等を配置する。

国道398号

- 国道398号の歩道舗装を、プロムナード幅員分だけ煉瓦舗装とすることを、国道管理者に要請

女川町海岸広場

- 海が美しく感じられる空間づくり
- 本物の漁港を見ながら様々な活動ができる場の整備
- 「くどける水辺」の創出
- 緑地・道路・歩道が全て海とつながるフラットな空間の形成
- 町のにぎわいを海と結び付け、道路境界線を感じさせない形の一体的なデザイン
- 国道398号に立った時の海への視線誘導による海への臨場感創出
- 素材にコンクリートやアスファルトを使用して安価につくることを目標とし、緑を効果的に配置することを推奨
- プロムナード上に、イベントのテント設営時に使用できるアンカー付きの重りを計画



震災遺構

- 水路も取り込んだデザインを検討
- “失われたものの上に、もう一度再生していこうとする人々の力"というポジティブなメッセージを伝える震災遺構デザイン

メモリアルゾーン

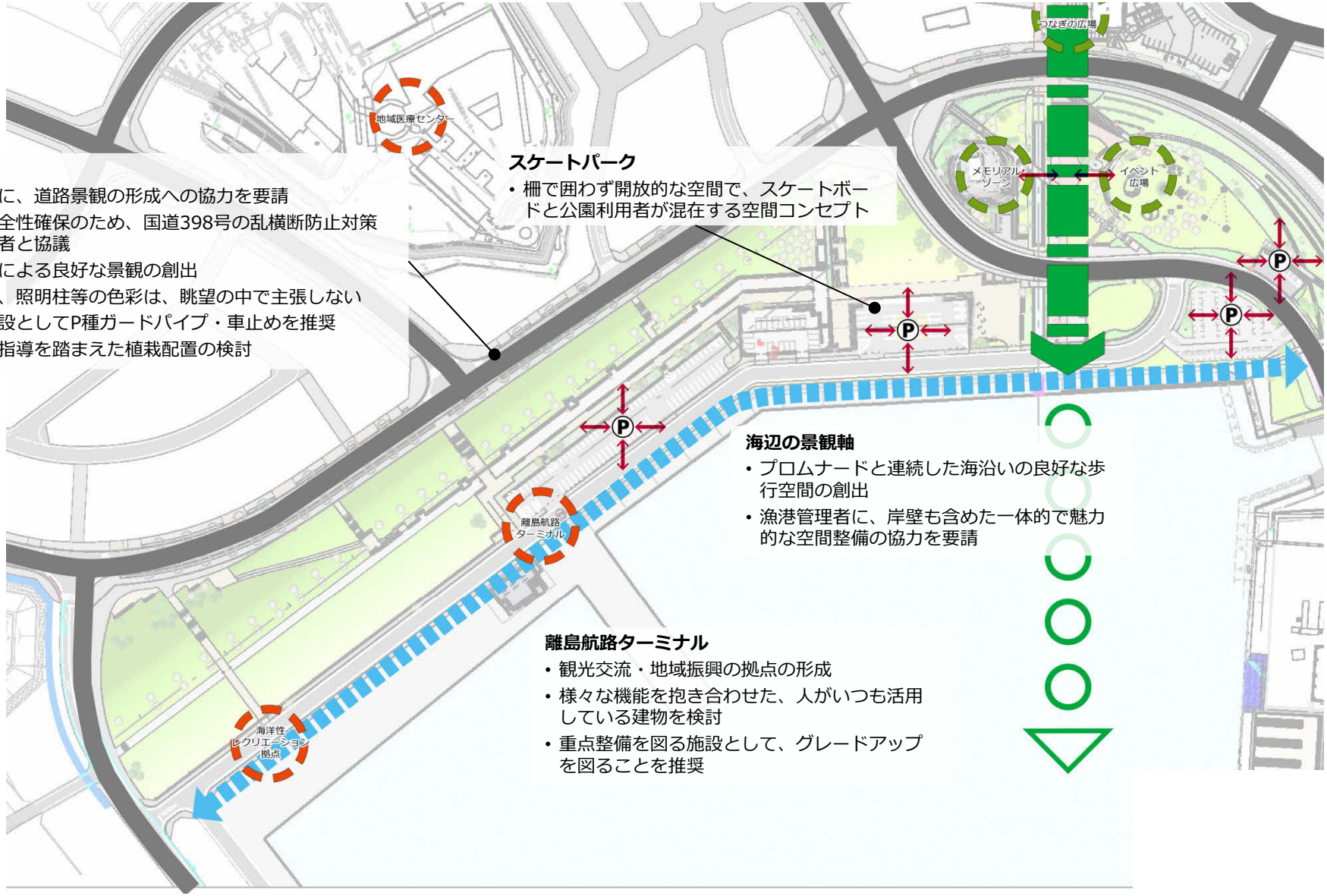
- 海に向かって開けるプロムナードづくり
- 女川駅から観光交流エリア岸壁まで並木を連続させる
- 水路構造物の変更が生じない条件で周辺地盤計画高の検討
- メモリアルゾーンとイベント広場を繋ぐ水路横断橋設置の検討
- L1津波による国道398号背後地への影響の確認
- 賑わいの動きを生む仮想行動を考慮した、補助動線の確保

イベント広場

- 様々なイベントが開催できる広場空間の創出
- イベント広場エリアを斜めに繋ぐ動線の位置づけの明確化
- ユニバーサルデザインを考慮した動線計画の検討
- イベント時の使いやすさを考慮し、テントを設置しやすいフックを設置

3. シンボル空間検討部会

（5） 女川町海岸広場南側における成果



国道398号

- 国道管理者に、道路景観の形成への協力を要請
- 歩行者の安全性確保のため、国道398号の乱横断防止対策を国道管理者と協議
- 並木の設置による良好な景観の創出
- 横断防止柵、照明柱等の色彩は、眺望の中で主張しない
- 交通安全施設としてP種ガードパイプ・車止めを推奨
- 視距確保の指導を踏まえた植栽配置の検討

スケートパーク

- 柵で囲わず開放的な空間で、スケートボードと公園利用者が混在する空間コンセプト

海辺の景観軸

- プロムナードと連続した海沿いの良好な歩行空間の創出
- 漁港管理者に、岸壁も含めた一体的で魅力的な空間整備の協力を要請

離島航路ターミナル

- 観光交流・地域振興の拠点の形成
- 様々な機能を抱き合わせた、人がいつも活用している建物を検討
- 重点整備を図る施設として、グレードアップを図ることを推奨

4. 清水公園検討部会

（1） 清水公園検討部会の対象範囲

- 清水地区公園づくり構想、町民参加によるまちづくりＷＧの提言を踏まえ、水辺の価値をいかした女川町としての総合的なまちづくり計画を検討



4. 清水公園検討部会

（2） 清水公園検討部会の成果（清水公園整備計画）



4. 清水公園検討部会

（3） 清水公園検討部会の成果（グラウンドエリア）

清水公園運動施設のコンセプト

- 「森の中に溶け込むスタジアム」をコンセプトに、凛とした雰囲気や正面性を意識するのではなく、穏やかな保養所のイメージ
- スポーツ・交流のシンボル的な公園と、ランドスケープと一体となった上質なスポーツフィールドをめざす
- フィールド外周の観客席を盛土し、全体として元々の地形を活かしたかのような臨場感の高いスポーツフィールド



芝生広場

- 試合時の準備運動等のスペースとしても使用可能なように、芝生の広場を大きく確保

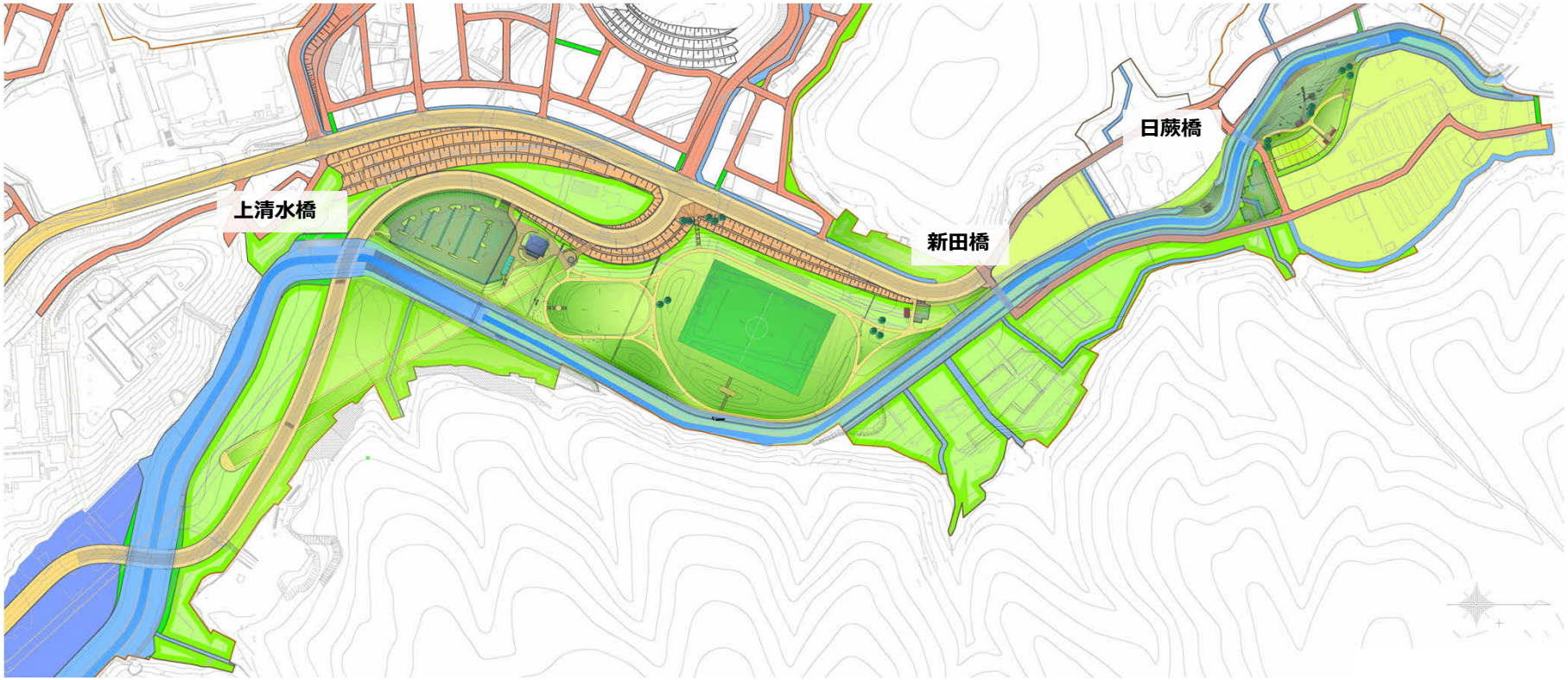
北側駐車場

- 試合時には公園近傍の町有地を利用可能なため、駐車台数を見直し

5. 川まちづくり検討部会

（1） 川まちづくり検討部会の対象範囲

- 二級河川女川の基本設計・詳細設計、清水地区公園づくり構想、町民参加によるまちづくりＷＧの提言を踏まえ、水辺の価値をいかした女川町としての総合的なまちづくり計画を検討
- 多自然型川づくり、親水空間整備に向けて、上清水橋から上流の止野川合流点までの護岸形状見直し案を県に提案



（2） 川まちづくり検討部会の成果

多自然型川づくり

- 川本来の自然性（川らしさ、生態系の豊かさ）を保全、再生する
- 川と人との関わりが豊かな場所とする

護岸の形状

- 瀬や淵、水際植生などの多様性による川らしさ生むために、5分勾配の単断面に変更
- 護岸に天端コンクリートを打設するものの、土羽仕上げとすることで、植生の回復



6. 民間の取組みに対する技術的支援

（1） 景観ガイドラインへの技術的アドバイス

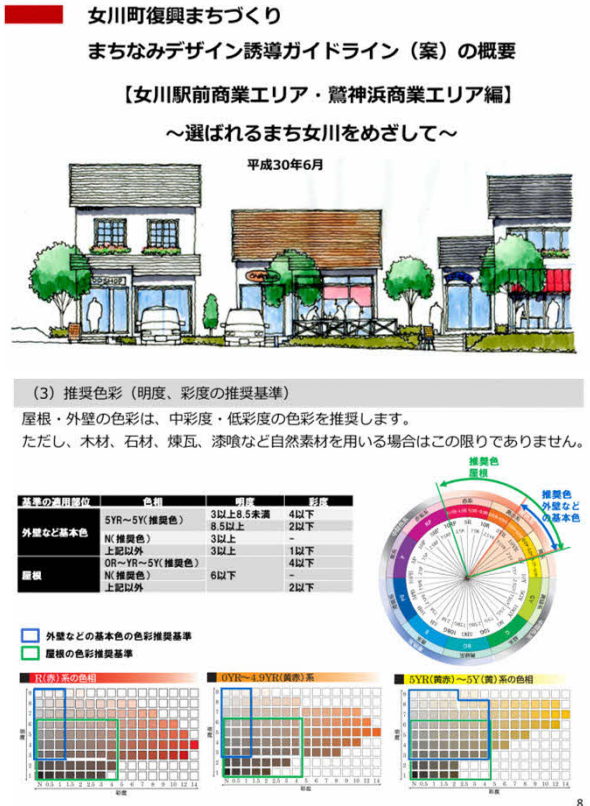
- 民間事業者独自の取組みである「水産加工団地ガイドライン」、「商業エリアのまちなみガイドライン」などの策定にあたり、アドバイザーとして参画し、町全体の景観まちづくりと民間の建築との間の橋渡し役を担った



水産加工団地景観形成ガイドライン

（主体：基幹産業復興推進協議会）

出典：第5回女川町復興まちづくりデザイン会議



まちなみデザイン誘導形成ガイドライン

（主体：女川駅前商業エリア景観形成推進協議会ガイドライン策定部会）

出典：第18回女川町復興まちづくりデザイン会議